

ふくしまオーガニック通信

～ 令和6年度 第2号 ～



令和6年 11月7日

福島県農業総合センター有機農業推進室

福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地

TEL:024(958)1711 FAX:024(958)1730

Email:yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp

<有機農業推進活動の取組紹介>

「有機農業就農体験ツアー in 福島」を開催しました

【農林水産部環境保全農業課】

県では、新たな有機農業の担い手を確保するため、福島県内において有機農業による就農を検討している首都圏の方を対象に「有機農業就農体験ツアー」を9月28日（土）と10月12日（土）に開催しました。

20代から50代の計22名に参加いただき、ななくさ農園（関氏、二本松市）、Bond&Co.（ボンド氏、会津若松市）及び会津青空ファーム（吉田氏、会津美里町）の農場を訪問し、収穫やぼかし肥料づくりを体験してもらいました。また、有機農業に取り組んだきっかけ、栽培や販売の工夫及び福島県の暮らしの説明を受け、有機農業による就農に向けてイメージを膨らませていました。



サヤインゲン収穫体験の様子
（関氏ほ場（二本松市））



ぼかし肥料づくり体験の様子
（ボンド氏作業場（会津若松市））

有機農業に関する理解促進講座を開催しました

【農業総合センター有機農業推進室】

有機農業推進室では、中通り地方の大学と連携し、将来、栄養士等として活躍される学生を対象に、有機農業への理解を深めてもらう講座を毎年開催しています。

本年度は、7月23日に福島学院大学短期大学食物栄養学科、10月24日に桜の聖母短期大学生活科学科食物栄養専攻の学生を対象に開催しました。7月は、有機野菜を生産している(有)ニッケイファームの大竹氏による講義と、その野菜を使った調理実習を行いました。10月は、二本松市のななくさ農園を訪問し、園主の関氏による講義と、サヤインゲンの収穫体験を行いました。参加した学生からは、「環境負荷を減らすには有機農業が大切だとわかった。」、「農家の苦勞が伝わった。調理や食事を大切にしたい。」、「苦手な野菜なのに美味しく食べられた。」、「農作物を収穫する機会がないので良い経験になった。」等の感想が寄せられました。1月には郡山女子大学短期大学部の学生を対象に開催する予定です。



理解促進講座の様子（左：福島学院大学短期大学、右：桜の聖母短期大学）

磐梯町グリーンな栽培体系現地検討会でリモコン草刈機の実演を行いました

【会津農林事務所農業振興普及部】

磐梯町グリーンな栽培体系とは、水稻栽培における環境にやさしい栽培技術である「秋耕」と省力化に資する先端技術の「自動水管理システム」及び「リモコン草刈機」の3つの技術を取り入れた栽培体系です。会津農林事務所では、この栽培体系を推進するため、令和6年8月29日に2機種のリモコン草刈機の実演会を行いました。(株)オーレックのブルモアーRCは、ハイパワーなハンマーナイフで雑草を細かく粉砕することができます。ハスクバーナ・ゼノア(株)のベローンは、親子式の傾斜地専用草刈機で最大作業角度60度まで対応しています。いずれも中山間地域特有の急傾斜や幅が狭い水田畦畔を有している磐梯町で力を発揮できる特徴を持っています。参加した生産者のみなさんも興味深く実演を見学し、機械の仕組みや実践的な技術、価格などについて質問が出されました。



実演の様子（左：(株)オーレック製「ブルモアーRC」、右：ハスクバーナ・ゼノア(株)製「ベローン」）

会津地方有機農業推進チーム現地研修会を開催しました

【会津農林事務所農業振興普及部】

令和6年6月6日に、会津地方の有機農業の推進・拡大、普及指導員のスキルアップを目的とし、「会津地方有機農業推進チーム現地研修会」を開催しました。

今回は、会津美里町の(有)自然農法無の会が取り組んでいるカバークロップを活用した大豆の不耕起栽培について学びました。この技術は、前年秋に播種したライムギをローラークリンパーで踏み倒し、敷き詰められたライムギをかき分けて大豆を播種する栽培方法です。ライムギで土を覆うことによる抑草効果やライムギの根による土壌物理性の改善が期待できます。今後は、適切なライムギの播種量や、カバークロップ不耕起栽培に対応した播種機の開発などの課題もありますが、省力的で環境負荷が少ない栽培方法として今後も注目したい技術です。



ライムギを敷き詰めたほ場で説明を受ける参加者

<現地実証ほの紹介>

キャベツ有機栽培における緑肥利用による減肥効果の実証

【農業総合センター有機農業推進室】

有機キャベツの安定生産や生産コスト低減に向けて、空中の窒素を固定するマメ科緑肥のクロタラリアをすき込むことにより、どの程度減肥できるかを確認する実証試験に取り組んでいます。

実証試験では、6月5日に緑肥を播種、7月27日にモアで粉碎し、ロータリーをかけて土中にすき込みました。その後、18日間腐熟させてから、8月14日にキャベツを定植しました。

これから、無肥料区、50%減肥区、20%減肥区、通常施肥区の収穫物の違いを確認する予定です。



すき込み直前の緑肥の坪刈り調査(7月27日、草丈130~140cm、2.51kg/m²)

イチゴの有機栽培における脂肪酸グリセリド乳剤を使用した アブラムシ類及びうどんこ病の防除法の実証

【会津農林事務所農業振興普及部】

イチゴの有機栽培では、アブラムシ類やうどんこ病などの病虫害防除が課題となっています。特に、無加温栽培の場合は、天敵を活用した生物的防除は難しく、防虫ネットの展張や有色粘着板の設置などの物理的防除や、換気や伝染源の除去などの耕種的防除が中心であり、栽培期間後半にこれらの病虫害が多発する傾向にあります。

そこで、今年度の実証試験では、アブラムシ類に対する気門封鎖効果やうどんこ病に対する菌糸伸長抑制効果が期待できる有機JAS規格適合資材である脂肪酸グリセリド乳剤（商品名：サンクリスタル乳剤）の効果的な使用方法について検証しています。



アブラムシがイチゴの花房についている様子

簡易ハウスを活用したアスパラガス有機栽培の半促成長期取りの実証

【相双農林事務所双葉農業普及所】

双葉地域では、主に水稲の有機栽培に取り組む生産者が少しずつ増加しています。有機栽培による営農再開の後押しと、水稲以外の品目の有機栽培の拡大に向けて、本年度は小型簡易ハウスによるアスパラガスの実証試験を行っています。

本県の主要園芸品目であるアスパラガスは、露地栽培と施設栽培が行われていますが、露地栽培では茎枯病が多発するため、化学的防除を行わない有機栽培では、施設栽培が必須となります。しかし、ここ数年の資材高騰により、パイプハウスの新規導入は困難な状況となっています。

そこで、比較的安価な小型の簡易ハウスを用いて、県オリジナル品種「ハルキタル」の有機栽培の実証をしています。



簡易ハウス内の様子

<普及コラム>

「郡山環境保全農業研究会」が視察研修を行いました！

【農業総合センター有機農業推進室】

郡山市で水稲の有機栽培に取り組む「郡山環境保全農業研究会」は、水稲有機栽培の技術向上のため、平成27年から毎年1回県内外の先進地視察研修を実施し、生産者との交流、連携を図っています。研究会員以外の生産者にも参加を呼びかけることで、会員の有無を問わず栽培技術や課題等を共有し、参加者の栽培技術の向上と環境保全型農業の輪を広げる活動を行っています。

今年も、会員5名を含む総勢23名が、8月1日に安島農園（いわき市）、根本有機農園及び（農）あいアグリ太田（南相馬市）の水稲有機栽培ほ場を視察し、雑草防除、施肥管理及び水管理等に係る工夫や課題について、生産者と意見・情報交換を行いました。



意見交換会の様子



視察研修参加者

「七人の百姓『あいづ有機農法生産組合』」を紹介します！

【会津農林事務所農業振興普及部】

「あいづ有機農法生産組合」の組合長である横山幸喜さんは約40年前に、化学農薬や化学肥料に頼り切った栽培方法に疑問を持ち、有機栽培に取り組み始めました。平成12年に同じ考えを持った生産者7名が集まり「あいづ有機農法生産組合」を設立し、平成18年には有機JAS認証を取得しています。

有機農業を志す若手の育成にも意欲的に取り組み、結成当初は、7名であった組合員も、今では11名まで拡大しており、現在、さまざまな品目を年間通して共同出荷し、県内外の大手スーパーや地元の旅館等への取引まで拡大しています。

会津若松市を代表する有機生産者組織としてさらなる取組拡大と、「会津若松市オーガニック推進協議会」のメンバーの一員として、地域の有機農業の活性化に大きな力となることが期待されます。



あいづ有機農法生産組合メンバー

「福島県環境保全稲作研究会」が視察研修を行いました！

【相双農林事務所双葉農業普及所】

相馬市と南相馬市で活動する「福島県環境保全稲作研究会」が、8月19日に宮城県石巻市と登米市で視察研修を行いました。肥料メーカーの案内で、今年度実証試験を行っている有機肥料「エキタン有機」を使用している生産者を視察しました。

参加者からは、「雑草に吸われぬか」「肥料の加減がわからない」との質問があり、現地生産者から「微生物を活かす作土層の厚さ（10cm未滿の耕耘）が大事」「有機資材は1kg/10aが良い」などのポイントを伺い、施肥に対する考え方が変わったとの感想が聞かれました。

視察地の石巻市と登米市は、水稻の主産地であるだけでなく、有機水稻栽培においても、地域が一体となり推進していることがわかりました。



現地生産者との意見交換の様子

環境保全型農業研究会「農Limit」が

いわき・ら・ら・ミュウ収穫祭に出店しました！

【相双農林事務所双葉農業普及所】

令和2年度に発足したいわき市の環境保全型農業研究会「農Limit」は、地域の自然環境の保全と農業生産の技術向上に取り組んでいます。現在は、7名でいわき市山田地区を拠点に4.3haの水田で有機米を生産しています。有機JAS認証を取得している会員が過半数を占め、地域の有機農業を牽引しています。

「農Limit」は、10月27日に小名浜のアクアマリンパークで開催された「いわき・ら・ら・ミュウ収穫祭」に出店し、有機農産物の販売や「葉」も無駄なく食べられる葉付きのニンジンを紹介しました。野菜や米粉加工品をはじめ、米では1～2kg詰めものの売れ行きが好調でした。お米を購入したお客様からは、「市内のどこで生産しているか」「どこで購入できるのか」などの声が寄せられました。



販売会場の様子

<お知らせ>

野菜有機栽培講習会を開催します

【農業総合センター有機農業推進室】

有機栽培に取り組むことを検討している野菜生産者の方々向けの講習会を開催します。

日時 令和6年11月20日（水） 9：30～12：30

場所 農家ピザ くまのグラッチェ（郡山市大槻町漆棒82（郡山青少年会館））

内容 [講義1] 野菜有機栽培の基本（農業総合センター有機農業推進室 木幡由美子主査）
[講演2] (有)ニッケイファームの取組（代表取締役 大竹秀世氏）
[実証ほ見学] 緑肥を活用したキャベツ減肥試験

参加費 2,100円（昼食代）※有機野菜を使用

参加申込 令和6年11月13日（水）までにお申し込みください（連絡先は1ページ目参照）

会津・南会津地方有機農業推進セミナーを開催します

【会津農林事務所農業振興普及部】

有機農業における土づくりの考え方や有機栽培技術および最新の研究成果等について、2名の専門家に紹介いただきます。

日時 令和6年11月19日（火） 13：00～16：00

場所 喜多方プラザ文化センター 小ホール

参加費 無料（要申込）



講演1 「BLOF理論で 土づくりを科学する」 小祝 政明 氏

(一社)日本有機農業普及協会 代表理事
(株)ジャパンバイオフィーム 代表取締役

プロフィール

中学・高校生時代に食品添加物が原因で体に変調をきたし、自然療法で治療。食材の形は同じでも中身は違うことに気づき、茨城で7年間米・野菜づくりを実践。その後、オーストラリアの有機農業研究所に微生物エンジニアとしてスカウトされ、牧場の土壌改良に取り組むとともに、微生物による有機物の循環システムを学ぶ。現在は、(株)ジャパンバイオフィーム(長野県伊那市)代表を務めながら、経験やカンに頼るだけでなく客観的なデータを駆使した有機農業の実際を指導している。

講演2 「有機栽培技術と 研究最前線」

三浦 重典 氏

農研機構 本部みどり戦略・スマート農業推進室
兼 九州沖縄農業研究センター
みどり戦略・スマート農業コーディネーター

プロフィール

農学博士。1987年に農林水産省に入省。1997年から農研機構で作付け体系に関する研究やカバークロップの利用技術の開発に取り組む。2008年から有機農業に関する研究に従事し、水稲や大豆、野菜の有機栽培技術や除草機械の開発に携わる。現在は、みどり戦略・スマート農業推進室で、みどりの食料システム戦略とスマート農業の一体的推進や社会実装を加速する情報発信の充実化などに取り組んでいる。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会臨時委員などを務め、「有機農業の推進に関する基本的な方針」の策定にも関与。



南会津地方有機農業推進セミナーを開催します

【会津農林事務所農業振興普及部】

南会津地方で今年度新たに乗用型水田除草機を導入して除草を行ったほ場の収量や品質などについて紹介します。

日時 令和6年11月27日（水） 10：30～12：00

場所 JA 会津よつば田島支店 第1会議室

内容 ・下郷町における機械除草（株式会社大竹製作所 除草機のるたん JJ-1）による
水稲有機栽培の取組実績について
・情報提供 県内有機栽培の事例紹介

参加費 無料

<事業紹介>

『有機農業関連の補助事業について』

【農林水産部環境保全農業課】

1 環境にやさしい農業拡大推進事業

【有機JAS認証等拡大支援事業】

- 内 容：有機JAS、特別栽培認証に係る経費等の支援
- 事業主体：農業者等（小分け認証は県内事業者）
- 補 助 率：新規認証（有機、特裁）3/4以内、継続認証（有機のみ）1/2以内、
小分け認証（新規）定額（上限300千円）＋施設整備1/2以内（上限2,000千円）

2 みんなでチャレンジ！環境保全型農業拡大事業

【環境保全型農業チャレンジ！事業】

- 内 容：有機栽培、特別栽培の拡大、新規取組に必要な経費の支援
- 事業主体：JA部会、生産者組織等
- 補 助 率：有機栽培は1団体あたり、[参加人数] × [単価100千円/人]、
特別栽培は1団体当たり、[取組面積] × [単価5千円/10a]（上限1,000千円/団体）

3 ふくしま有機農業ひとつづくり強化支援事業（ふくしま有機農業就農研修支援事業）

- 内 容：有機農業の就農受け入れ、技術研修、就農促進の活動の経費を支援
- 事業主体：有機農業生産者組織、市町村等
- 補 助 率：定額（上限1,000千円）

【問い合わせ先】

県北農林事務所：024 - 521 - 2604

県中農林事務所：024 - 935 - 1307

県南農林事務所：0248 - 23 - 1555

会津農林事務所：0242 - 29 - 5302

南会津農林事務所：0241 - 62 - 5253

相双農林事務所：0244 - 26 - 1147

いわき農林事務所：0246 - 24 - 6160

農業総合センター有機農業推進室：024 - 958 - 1711

農林水産部環境保全農業課：024 - 521 - 7453



↑環境にやさしい
農業拡大推進事業



↑みんなでチャレンジ！
環境保全型農業拡大事業



↑ふくしま有機農業
ひとつづくり強化支援事業